

Accumulation of Astrocytic Aquaporin 4 and Aquaporin 1 in Prion Protein Plaques

貞島, 祥子

<https://hdl.handle.net/2324/4474969>

出版情報 : Kyushu University, 2020, 博士 (医学), 課程博士

バージョン :

権利関係 : Public access to the fulltext file is restricted for unavoidable reason (2)

(別紙様式2)

氏名	貞島 祥子			
論文名	Accumulation of Astrocytic Aquaporin 4 and Aquaporin 1 in Prion Protein Plaques			
論文調査委員	主査	九州大学	教授	中尾 智博
	副査	九州大学	教授	須藤 信行
	副査	九州大学	教授	神野 尚三

論文審査の結果の要旨

主論文は、日本における2つの主要な遺伝性プリオン病である P102L 遺伝子変異を伴う Gerstmann-Sträussler-Scheinker disease (GSS) と V180I 遺伝子変異を伴う家族性 Creutzfeldt-Jakob disease (CJD) における水チャネル蛋白であるアクアポリン(AQP)1 と AQP4 の病理学的な特徴を明らかにするため、免疫染色法、また二重免疫蛍光法を用い検討を行ったものである。研究の結果、AQP1 と AQP4 の強い発現をプリオンプラーク周囲、特にプラークに深く入り込んだアストロサイトの突起遠位部に認め、AQP がプリオン病におけるプラーク形成にも保護的な役割を持つ可能性が示された。

以上の成績はこの方面の研究の発展に重要な知見を加えた意義あるものと考えられる。本論文についての試験はまず論文の研究目的、方法、実験成績などについて説明を求め、各調査委員より専門的な観点から論文内容及びこれに関連した事項について種々質問を行ったが適切な回答を得た。

よって調査委員合議の結果、試験は合格と決定した。